

アサヒビジネスソリューションズがALMソリューションを導入してアサヒビールグループのシステム開発体制を整備

アサヒビールグループのシステム構築および運用を担当するアサヒビジネスソリューションズは、ポーランドが提供するアプリケーションライフサイクルマネジメント(ALM)ソリューションを採用した。今回採用した製品は、変更管理ソリューション「Borland StarTeam™」、設計ソリューション「Borland Together™」、業界標準のJava開発ツール「Borland JBuilder™」の3製品である。なお、アサヒビジネスソリューションズは今回のALM採用により、ポーランドのBorland StarTeamを日本で初めて導入したことになる。

アサヒビジネスソリューションズの主要顧客であるアサヒビールは、最新IT技術の活用による競争優位性を創出できる体制を実現するために、急速に変化する市場に柔軟かつ迅速に対応可能な、標準ITインフラストラクチャ構想への移行を進めている。アサヒビジネスソリューションズは、

ポーランド

この標準ITインフラストラクチャ構想の実現に向けて、高品質アプリケーションを効率的に開発し、将来のメンテナンスを含めたアプリケーションライフサイクルを包括的にサポートするために、要件定義、設計、開発、テスト、運用、変更管理を含めた全開発工程を抜本的に見直し、アプリケーションライフサイクル全体を管理できるポーランドのALMソリューションを採用した。

アサヒビジネスソリューションズは、特に頻繁な仕様変更、機能拡張が予想されるプロジェクト管理にBorland StarTeamを導入することで、ソフトウェア変更時の一元化されたアクセス管理と変更管理の集中化、開発チームのコミュニケーションの効率化を実現し、大幅な生産性の向上に繋がることを期待している。

フライシュマン・ヒラード・ジャパン(株)

TEL : 03-3524-4642

アイログの最適化製品が

新日鉄の自動車メーカー向け鋼板 SCM ソリューションを導入

新日鉄ソリューションが新日本製鐵(以下、新日鉄)向けに開発した自動車鋼板 SCMソリューションに、ソフトウェア・コンポーネントのリーディング・プロバイダであるアイログの最適化製品が導入された。

自動車鋼板生産は、注文仕様の多様化、最終需要のぶれやモデルチェンジ/設計変更による注文変動、圧倒的に大きな製造ロット、納期と品質保持の厳格化、長い製造工程、非定常作業によるハンド対応、といった様々な特徴がある。この生産工程を最適化するシミュレーション・システムに対して求められる要件は、複雑な構造を持つデータをハンドリングできること、複数資材と複数母材間において板取ベースの一貫引当を実現し、財源バランスを高速に求解できることなどである。これらの複雑な要件を解決するツールとして、アイログの最適化製品である「ILOG Solver」と「ILOG CPLEX」、開発環

アイログ

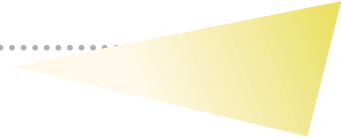
境を提供する「ILOG OPL Studio」が採用された。

アイログの最適化製品群はさまざまな最適化モデルを実装し、高速な求解を可能とする求解エンジンとクラス・ライブラリから構成されている。これにより、母材設計段階においては、歩留まりの良い母材を自動的に設計することができるようになり、また、板取段階においては、量ベースではなく板取ベースで一貫した財源バランスを超高速に計算すると共に、無駄のない最適な板取ができるようになった。

新日鉄ではすでに複数のアプリケーションでアイログ製品を使用していたという実績があり、同社製品に対する高信頼性、高機能性、さらに新日鉄の課題解決に十分な処理能力と使いやすさが認められ、今回の正式導入に至った。

アイログ(株)マーケティング・アシスタント

TEL : 03-5211-5770



サバの「Saba Learning Enterprise」を グローバルナレッジネットワークの研修サービス管理システムに導入

人材開発ソリューションの世界的なリーディングカンパニーであるサバ・ソフトウェア(以下サバ)は、人材育成を通じて企業の競争力強化を支援するIT教育専門企業、グローバルナレッジネットワーク(以下グローバルナレッジ)の研修サービス管理システムに、サバのLMS(Learning Management System)である「Saba Learning Enterprise」を導入した。このシステムは、様々な形態の研修とそれに関わるリソースを管理し、適切な研修プログラムを従業員やパートナー、顧客企業に提供するWebベースの研修管理システムである。

グローバルナレッジは現在、シスコシステムズ社やマイクロソフト社などの製品およびソリューションの研修サービスを顧客企業に提供しており、顧客毎の申込から教育実施後のレポートまで統合されたプロセスを必要としていた。そこで今回、Saba Learning Enterpriseが導入

サバ・ソフトウェア

されたことによりグローバルナレッジは、同社の教育研修プログラムサービスを利用する受講者のデータ管理業務が大幅に効率化できるようになった。今回Saba Learning Enterpriseが選択されたのは、同製品が世界15カ国における各業界の主要企業250社以上に導入されているという実績と、サバのビジョンである「HCDM (Human Capital Development and Management)」が高く評価されたからである。グローバルナレッジでは、データの一元化を終え、今後顧客企業意思決定者に対して一層戦略的に良質なサービスを提供するため、コンピタンス管理や自社製品であるスキルチェックシステム、遠隔地教育ツールおよびそのコンテンツをSabaプラットフォーム上で稼働させることを検討している。

サバ・ソフトウェア(株) / TEL : 03-5649-1201

旧王子信用金庫の信用リスク計量化システムを開発 理論貸出利率、投資回収率の算出など各種業務にも対応

伊藤忠テクノサイエンス(CTC)では、旧王子信用金庫(以下、旧王子信金)の信用リスク計量化システムを開発し、稼働を開始した。

信用リスクの計量化とは、債権が回収不能になる可能性(リスク)を数値化し、管理する手法である。このシステムは、信用リスクの計量化(数値化)だけでなく、理論貸出利率、投資回収率の算出など、各営業支店や審査部門、経営企画部門などにおける一般業務にも対応した機能が用意されている。システムの特長は以下の通り。

各種現場業務を効率化：理論貸出利率、投資回収率など、各種リスク指標の算出に対応しているので各営業支店や審査部門、経営企画部門などにおける一般業務でも利用が可能である。

分析時間を大幅に短縮：一般的に利用されているモンテカルロシミュレーション法に加え、高速計算が可能

伊藤忠テクノサイエンス

なストレス倍率法が採用されている。これにより、分析に要する時間を大幅に短縮することができる。

将来を見据えた積極的な取組み：金融庁は2003年3月に、中小企業の再生と地域経済の活性化を目的に「リレーションシップバンキングの機能強化に関するアクションプログラム」を発表した。旧王子信金はこれをふまえて、同プログラムに対応する機能強化計画を策定した。今回の信用リスク計量化システムの導入は、この計画の一環である。

なおCTCでは、本システムをパッケージ化し、信用金庫をはじめとする他の金融機関向けに販売する準備を進めている。旧王子信金は2004年1月に、日興、荒川、太陽の3信用金庫と合併し、城北信用金庫となった。

伊藤忠テクノサイエンス(株) コーポレートコミュニケーション部 / TEL : 03-5226-1657

映像配信サーバ「OKI MediaServer」を 北陸先端科学技術大学院大学に納入

沖電気工業(以下、沖電気)は、北陸先端科学技術大学院大学(以下、JAIST)に対して同社製の映像配信サーバ「OKI MediaServer」を核とする遠隔教育システムを納入した。同大学では本システムを使用した高画質映像によるリアルタイム遠隔講義を開始し、双方向/多地点同時遠隔講義を実現した。

JAISTでは2002年に遠隔教育研究センターを設置し、遠隔教育の研究を進めつつ、情報科学研究科の丹康雄助教授が中心となって新システムの導入を検討してきた。今回、JAISTはリアルタイムに高画質な画像配信を実現するOKI MediaServerを高く評価し、遠隔教育システムとして導入した。本システムは手始めに、石川県にあるJAIST本校と首都圏の3拠点とを接続し、MPEG-4 ASPを用いたリアルタイム映像の双方向配信によって遠隔講義に利用された。システムの中核を成すOKI MediaServerはJAIST本校内

沖電気工業

に設置され、各拠点からはVPNを通してアクセスできる。また、受講者の映像視聴にはテレビ受像機を使用することができ、視聴端末としてセットトップボックス「StreamingPlayer™」を利用する。

OKI MediaServerによるシステムが採用された理由は、多地点での双方向通信が可能であることなど映像配信の根幹を成す部分の性能が評価されたこと、遠隔講義の視聴を行う際に必要であった複雑な機器操作を、StreamingPlayerを活用することで簡便化し、リアルタイムでの低遅延、高画質を実現できること、講義内容の知的財産権保護の目的から、DRM機能のサポートが評価されたこと等である。なお本システムは、住商エレクトロニクスのシステム構築により導入された。

沖電気工業㈱ブロードメディアカンパニー
メディアソリューション部 / TEL : 03-3455-0870

アイ・アール債権回収の「福岡コンタクトセンタ」に 最新VoIP方式のコンタクトセンタシステム「iCTNET」を納入

日立電子サービス(略称：日立電サ)は、2003年10月にアイ・アール債権回収が開設した「福岡コンタクトセンタ」に、PBXを使用しない最新VoIP方式(サーバ・IP電話)のコンタクトセンタシステム(iCTNET)を納入し、実運用を開始した。

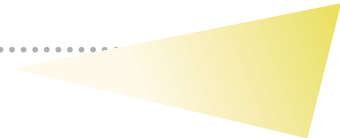
アイ・アール債権回収は、ベンダー選定にあたって、システム構築から保守・運用サポートまでワンストップで任せられるという理由から、日立電サを指名した。サーバからネットワーク、設備環境までのシステムインテグレーションの提供などが、評価された大きなポイントである。VoIP方式のコンタクトセンタシステムには、以下のような特徴がある。

多彩なダイヤリング方式を駆使したアウトバンドシステムの採用：プログレスダイヤル方式、プレディクティブダイヤリング方式、プレビューダイヤリング方式など。

日立電子サービス

分散コールセンタ方式：電話対応オペレータは福岡支店に常駐し、顧客対応に必要なデータベースは東京本社のサーバで一括管理といった「分散・集中」の使い分けにより、運用管理コストの削減が可能となった。業務拡張に合わせて柔軟に対応可能な業務アプリケーション「ARSystem」：短期間での開発、容易なカスタマイズ性、優れた適用性と拡張性により、各種受託債権に併せた業務開発が容易となった。また、オペレータに使い勝手のよい画面が、各種業務への対応を簡略化でき、業務の柔軟性に繋がった。通話料金が安価なIP電話網：通話距離と料金が連動しないIP電話網の活用により、運用経費を従来に比べて3割削減することができた。

日立電子サービス㈱総務部 秘書グループ /
TEL : 045-824-1071



メリルリンチ社が米企業改革法への対応にSASソリューションを採用 SASのオペレーション・リスク管理ソリューションも併せて導入

ビジネス・インテリジェンス・ソリューションとアナリティックスのリーディングベンダーである米国SAS Institute Inc.は、財務管理・コンサルタント等総合金融サービス会社として世界的な最大手であるメリルリンチ社が、同社の米企業改革法（Sarbanes-Oxley法）や新自己資本比率規制（Basel II）などの各種規制の遵守とオペレーション・リスク管理を支援するソリューションとして、SASソリューションを採用したことを発表した。採用となった「SAS Corporate Compliance for Sarbanes-Oxley」は、メリルリンチ社のような株式公開会社のグローバルな業務により発生する財務文書、プロセスおよび管理のための監視、追跡、分析を可能としたリポジトリを提供するものである。また、メリルリンチ社は、リスクを見極め、その影響を見積もり、リスクを低減し制御するためのソリューションとして、SASの提供するオペ

SAS インスティテュートジャパン

レーショナル・リスク管理ソフトウェアの活用も視野に入れている。この組み合わせにより、メリルリンチ社はリスクと自己査定管理のための統合化され一貫したインタフェースとフレームワークを得ることにより、同社が各事業部門での業務の中断や混乱を最小限に止め、データ収集活動から得られる利益を最大化することができる。

今回の採用について、SAS社長兼CEO、ジム・グッドナイト氏は次のように語っている。「メリルリンチ社は、責任感と誠実さ、そして顧客志向の戦略を展開している会社として既に確立した評価を受けています。我々はそのようなメリルリンチ社の規制遵守とオペレーション・リスク管理のためにSASのソフトウェア・ソリューションを提供できて、非常に嬉しく思います。」

SAS Institute Japan **㈱ マーケティング本部** /
TEL : 03-3533-3780

コニカミノルタホールディングスがビーコンITのEXTES Xurasを採用し メインフレームの商品マスタと在庫・入荷予定照会システムをWebで融合

コニカミノルタホールディングスは、同社の商品コード統一と在庫照会システムに、ビーコン インフォメーションテクノロジー(以下、ビーコンIT)のホストアプリケーションWeb化ツール「EXTES Xuras (エクステス・ジュラス)」を導入した。EXTES XurasはビーコンITが開発したメインフレームのエミュレータ画面をWeb化し、容易にWebアプリケーションを構築することができるミドルウェアである。J2EEをはじめとするWebアプリケーションサーバー上で稼動し、XML、Webサービスにも対応しているため、メインフレームアプリケーションを既存システムと連携させる機能にも優れ、コストパフォーマンスを増大させる。各メーカーのメインフレームに対応し、メインフレーム側のアプリケーションを修正することなく、Web化、XML化することも可能である。

EXTES Xuras 導入の発端は、旧コニカにおいて

ビーコンIT

EXTES Xurasでホストラッピングを行い、メインフレームに手を加えることなくブラウザから全商品情報の参照・一括修正を実現化したことからである。

コニカミノルタホールディングスが製品の選定のポイントとしたのは 純国産製でトラブル対応やメインフレームの外字コードに対応できる、メインフレーム上のアプリケーションに変更を加えることなくシステム構築が可能、低価格、XMLの柔軟性と拡張性、といった点である。

コニカミノルタホールディングスは今後も、内部の実務システム統合を実行し、新体制でのビジネス再編をしていく上で、Webサービス対応の特長を生かしたEXTES Xurasの機能に期待している。

ビーコンIT **㈱ マーケティング本部** /
TEL : 03-3340-2425